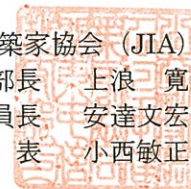




2015年12月22日

東京都知事 舛添要一様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達文宏
同 中野地域会 代表 小西敏正



鷺宮住宅の保存に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

知事におかれましては、かねてより文化全般について深いご理解を示され、弊会としてここに敬意を表します。

さて中野区白鷺一丁目にあります旧住宅公団による鷺宮団地（通称「鷺の宮住宅」、1957年竣工）には、都道補助第133号線（中杉通り）の整備計画がかかっていますが、本年7月から、本計画道路に関わる敷地及び建物内部の調査が始められ、近々そのほとんどが解体されることが予想されます。

ご高承の通り、この鷺宮団地は、戦後、公団東京支所がテラスハウス型として開発した3つの団地（鷺宮・烏山・阿佐ヶ谷）の最初のもので、その住棟の基本設計は、晴海高層アパート、東京文化会館、東京海上ビルディングなどの設計で知られる巨匠 前川國男によるものであり、この鷺宮団地における住棟が翌年以降の烏山や阿佐ヶ谷の団地の住棟の原型となっています。

この標準住棟の特徴の第一は、傾斜屋根のデザインにあり、フラットルーフが時代の先端として受け止められていた当時であって、前川事務所の設計思想をよく表したものと言えます。切妻屋根の2階建てながら南側の軒先を伸ばし、平屋に近い形姿は周りの風景に良く溶け込んでいます。

翌年の阿佐ヶ谷住宅と同様に、壁はコンクリートブロック造として、鉄筋コンクリートの臥梁を回し、木造で二階の床をつくり、鉄筋コンクリート造で屋根を掛けていますが、当時すでに公団は階数を問わず一体的な鉄筋コンクリート造を標準としていたことを考えると、ここに前川國男の独自性を見ることができます。また、庇が深く、玄関上部の壁と屋根部分に四角い穴が開けられ、通風と採光を取り入れるようになっているのも鷺宮住宅の特徴です。

阿佐ヶ谷団地ならびに烏山団地が解体された現在、鷺宮団地は日本の住宅発展史に前川がなした貢献を証言するものとして、たいへん貴重な存在といえます。

以上のように、その文化的・建築的価値の重要性・希少性に鑑み、都道補助第133号線の計画に際しては、ぜひともこの鷺宮団地の様相が実際の姿として残され、またその住棟が有効活用されるよう、貴職に最大限のご配慮を賜りますよう、ここにお願いする次第です。

なお、日本建築家協会関東甲信越支部、同 保存問題委員会、同 中野地域会といたしましても、公益社団法人として可能な協力をさせていただき所存であることを、お伝えしたいと存じます。

敬具